

枕崎市 令和5年12月号 地域学校協働活動だより

パソコンで検索 **枕崎市地域学校だより** 検索

スマホで読み取り



発行
枕崎市
教育委員会
生涯学習課

「地域学校協働活動だより」は枕崎市のホームページにも掲載されています。スマホで読み取ったり、パソコンで検索して、カラー写真付きの記事をご覧ください。

～ほぜ祭りで太鼓踊りの奉納 南方神社では巫女舞も～ 桜山校区

れ、それぞれ山下・水流太鼓踊りと東鹿筆太鼓踊りが奉納されました。

山下・水流太鼓踊りは4年振りの奉納でしたが、鉦打ち（かねうち）を高校生、入れ鼓（いれこ）を桜山中の生徒が担当しており、地域の子供たちが郷土芸能の継承を担っています。

東鹿筆太鼓踊りは昨年に続いての奉納で、入れ鼓を桜山小の児童が担当しています。また、今年は新棒（しんぼう）踊りという、4人一組の踊りも5年振りに復活し、高校生一人と桜山中の生徒3人がリズムカルに跳ねる踊りを披露して大きな拍手を浴びていました。

ほぜ祭りに地域の子供が関わっているのは太鼓踊りだけではありません。



4年振りに奉納された山下・水流太鼓踊り

南方神社で行われる神事では巫女舞が奉納され、桜山中の生徒が「浦安の舞」を厳かに舞いました。

巫女舞は50年以上地域の子供たちによって受け継がれていて、南方神社の六月燈とほぜ祭りの神事で奉納されています。今年は4年振りの奉納で、照國神社で一日かけて講習を受けるなど練習を重ねてきました。

南方神社と妙見神社のほぜ祭りには、多くの観覧者が訪れ賑わいました。ほぜ祭りは地域で大切に受け継がれ、地域の絆作りや活力に繋がっています。

桜山の子供たちも大人と一緒に祭りを継承し、大きな一翼を担って活躍しています。



南方神社で巫女舞を奉納

～グラウンドゴルフで高齢者と交流～ 別府小学校

別府小学校では、11月2日に4年生24名が校区内の高齢者の方々と「ふれあいグラウンドゴルフ」を行いました。別府地区公民館の青少年講座も兼ねていて、高齢者の方々も子供たちとふれあうのを毎年の楽しみにしており、この日は16名の老人クラブ・高齢者学級の方々が参加してくれました。

グラウンドゴルフが初めての子も多かったのですが、おじいちゃんおばあちゃんが手取り足取り優しく教えてくださいました。何と、ホールインワンを達成した子も。

プレーしながら、「めっちゃ楽しいです！」と、うれしそうに話す子供もいて、たくさんの笑顔がはじけ、大いに盛り上がったグラウンドゴルフ大会になりました。



狙え！ホールインワン

～地域の高齢者を招き戦争体験講話～ 枕崎小学校

枕崎小学校では11月6日に、中町在住の宮内悦雄さん（87歳）を学校に招いて3年生48人が戦争についての話を聞きました。枕崎地区公民館の青少年講座の一つにもなっており、今年は4年振りに行われました。

宮内さんは、「戦争中は、さつまいもを育てて食べていた。当時は小学生だったが、空襲があるので学校に集まって勉強することができず、地域の分校で勉強をしていた。」

「昭和20年7月29日の枕崎大空襲で市街地の9割が焼け野原になった。枕崎の鰹船が戦争で徴用されていたので港のある枕崎が空襲を受けた。」「枕崎小学校は校舎の一部しか焼けなかったが、昭和26年のルース台風で大きな被害を受けた。」などの話をしてくれました。

枕崎小学校では11月6日に、中町在住の宮内悦雄さん（87歳）を学校に招いて3年生48人が戦争



戦争体験の話をする宮内さん

枕崎小学校では、11月6日に3年生が戦争体験講話を聞いた後、枕崎校区の老人クラブの方々と「紙てっぽう」や「こま回し」など10種類の「昔遊び」



竹とんぼで遊ぶ子供たち

～地域の高齢者と「昔遊び」で交流～ 枕崎小学校

で交流活動を行いました。枕崎地区公民館の青少年講座も兼ねており、4年振りの開催となりました。

子供たちは、体育館と校庭を回りながら、「けん玉」に挑戦したり、「竹とんぼ」を楽しんだりして、10種類全部の遊びを体験しました。

「紙てっぽう」は、新聞紙を自分で折って作りますが、腕を上手に振らないと良い音が出ません。子供たちは音を出すのに苦労していましたが、老人クラブの方に教わりながら上手になっていきました。大きな音が出たときはみんなで一緒に喜んでいました。

交流の最後には子供たちがお礼のダンスを披露して、高齢者の方々と一緒に盛り上がりました。

～枕崎の鰹節の歴史と伝統の講話～ 立神小学校

立神小学校では10月23日の4年生の「郷土の開発」の授業で、「枕崎の鰹節の歴史と伝統」について、立神校区で鰹節製造業を営んでいる戸床安孝さんが講師とな

って話をしてくれました。「郷土の開発」の授業は、立神地区公民館の青少年講座も兼ねており、地域の子供たちに地元の産業について知ってほしいということで、毎年行われているものです。

枕崎の鰹節は全国的にも有名で、生産量も国内の半分程度を製造しており、質・量ともに日本一の産地となっています。戸床さんからは「枕崎の鰹節は全国的に知られているが、そのきっかけとなったのが明治28年に起きた海難事故の『黒島流れ』である。枕崎だけでも411人の死者を出した。一家の大黒柱を失った家族らが、かつお節の行商を始め、県内だけでなく宮崎、熊本まで広めて全国的に有名になった。」との話がありました。

授業の最後には「かつお節パック」のプレゼントがあり、子供たちが大変喜んでいました。



鰹節づくりについて話をする戸床さん